

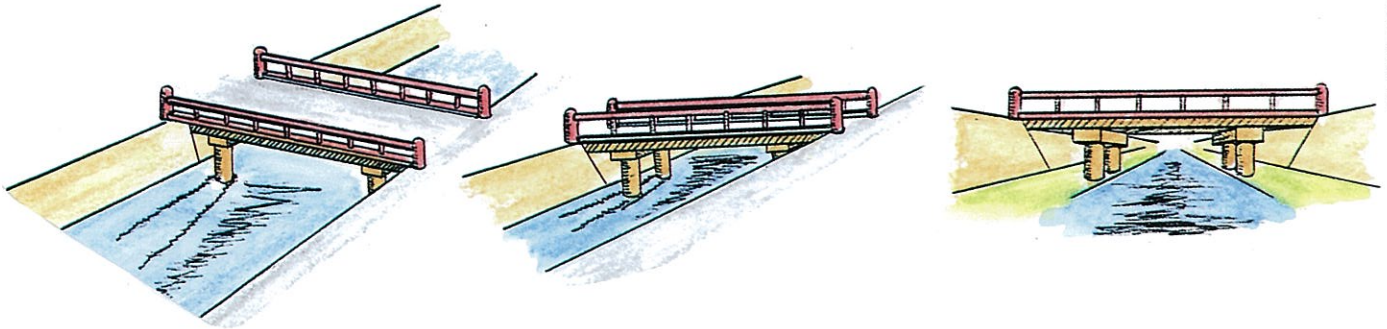
## 2 橋 梁

### 2・1 橋梁景観について

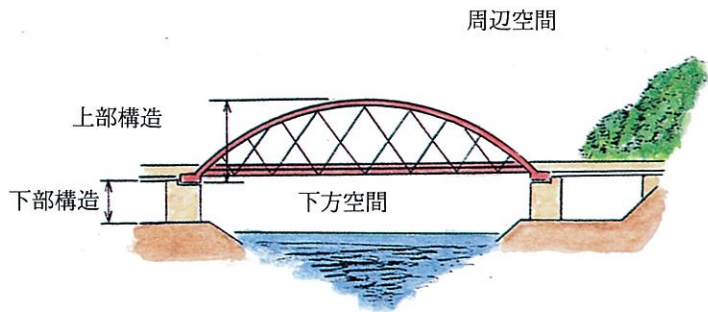
#### ■橋梁の構成と特徴的な景観

橋梁空間の特徴としては次の3点を上げることができる。

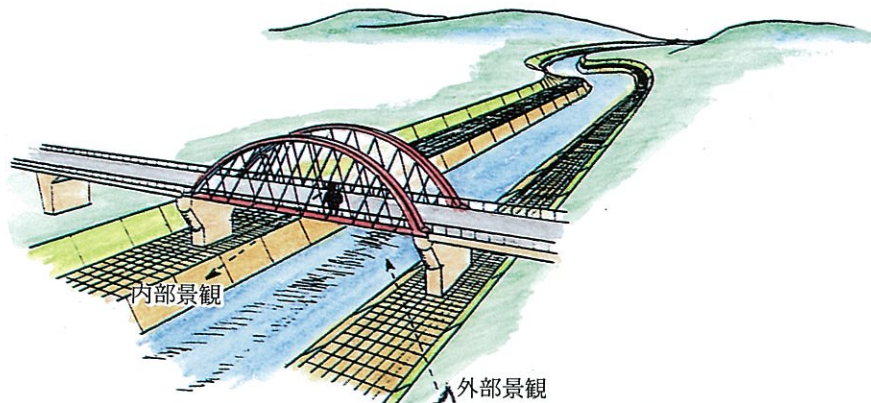
①立体的な景観を形成するため、その景観は視点の位置（特に高さ方向）の違いにより大きく異なる。



②橋上空間、周辺空間に加えて、下方空間をもつ。



③橋梁を外から眺める視点（外部景観）に加えて、橋上から水面越しに外を眺める視点（内部景観）を持つ。



したがって、橋梁に関する景観的検討は、様々な視点の位置の変化を意識しつつ、橋梁が作り出す特徴的な空間相互の調和を重んじることが大切である。

■景観形成の基本的な方向

橋梁デザインと周辺環境とを一つの景観としてつくりあげる方法には、次の2つの方法がある。

①融和法

橋梁を環境に融和調和させて、橋梁の存在を否定も強調もせずに既存の環境、景観に要素としての橋梁を添えようとするもの。

②強調法

橋梁の存在を強調し、風景の主要素としての役割りをもたせようとするものであり、環境にインパクトを与え、新たな景観をつくり出すもの。



宇賀橋（松江市）  
城下町のイメージを醸し出す木橋



屋那大橋（都万村）  
都万村のシンボルタワー

■立地環境による景観形成上のポイント

立地分類	周辺景観の特性	景観形成上のポイント
山間部	<ul style="list-style-type: none"> <li>地形が曲線によって構成</li> <li>谷の開放性</li> <li>樹木が多く季節により色彩が変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的にはアーチ橋などの曲線を持つ橋が地形に対して違和感（抵抗感）が少ない</li> <li>谷地形の中で橋の位置が高い場合には、不安定に見える場合がある</li> <li>桁橋の場合は径間を大きくしたり、桁高を低くすると山間部でも橋が目立たなくなり違和感が少なくなる</li> </ul>
田園部	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面、水面と空による平坦な構成</li> <li>良い見通し</li> <li>季節により色彩が変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しのよい平地では、全体が一様に連続した形態の橋は構図の上でまとまりがよい</li> <li>アーチ橋、斜張橋のように立ち上がりの大きな形態は、平地の単調さに対して適度のアクセント及びランドマークとなる場合がある</li> <li>アプローチが橋の印象を大きく左右する為、アプローチ部分の処理に注意する必要がある</li> </ul>
都市部	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工物による複雑な構成</li> <li>季節による色彩変化が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者、運転者から身近に見られる為、橋脚の形状、表面の処理が重要な要素となる</li> <li>周辺の建物、道路に比べ、スケールの大きな橋は圧迫感が強い為、注意すべきである</li> <li>下方空間が暗くなりやすいので、できる限りそうならないような配慮が必要である</li> </ul>
歴史的な地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>名勝旧跡となっている所や伝統的行事が行われている所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の印象を阻害することのないように配慮する必要がある</li> </ul>

## 2・2 景観整備の考え方

橋梁は、道路、鉄道等の一部として河川、峡谷等を渡り、地域の象徴となる可能性が高いものである。その整備に当たっては、防災・安全性及び快適性に加え、周辺の景観との調和に配慮して進める必要がある。

### 整備の考え方

1. 橋梁は、景観を眺める場又は眺められる対象として、利用者や沿道の住民に与える影響が大きいため、周辺の景観と調和するよう努めるとともに、地域の特性に配慮すること。
2. できる限り地域の象徴となるよう努めること。
3. できる限り道路本体との連続性に配慮すること。

### ●特性・視点

- 橋梁景観の形成に当たっては地域の歴史、文化、自然などの地域の特性や象徴性を表現し地域のランドマーク、シンボルとして整備することも検討する。
  - ・主要な視点場から眺められるので、視点場を意識して眺められる対象としてできる限り周辺の景観との調和に配慮する必要がある。
  - ・橋梁上においては視界が開けている場合が多いため、眺める場（視点場）としての景観の演出を検討することも必要である。
- 景観的に価値の高い地域においては、主要な眺望点から視覚的に認識されないよう工夫するなど、できる限り周辺の景観に対する十分な配慮を行なう。
- 橋梁は道路の一部であり、道路本体との視覚的な連続性を確保するために、橋詰めや植栽などを工夫する。



新江川橋（江津市）  
委員会を設置して色彩を決定した  
又、高欄、舗装に地元特産の瓦を利用した



城谷橋（安来市）  
親柱、高欄、舗装に工夫している

## 2・3 設計等の配慮事項

### 橋梁本体

橋梁の構造、形態、意匠、素材及び色彩については、周辺景観と調和するよう努めるとともに、地域の特性に配慮すること。

●構造・形態

地域の象徴となる場合は風土や歴史的背景など、地域や場所の特性に応じた構造形式を選択する。

- ・歴史性のある地域においては、格調が高く、また、落ち着いた雰囲気醸し出すような形態及び構造を工夫する。(松江大橋)
- ・中心市街地においては、軽快さやシンプルさなど景観形成のテーマに沿った構造形式を選択する。
- ・自然地においては、自然のもつ雄大さと調和するようダイナミックな構造形式を選択する。(おろちループ)



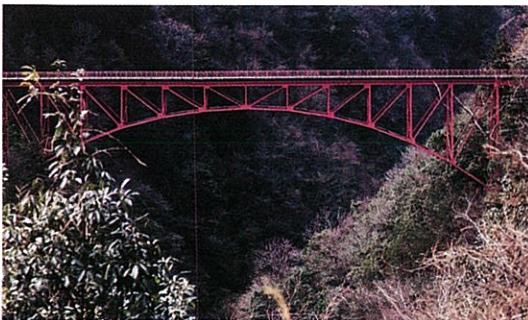
大浦橋 (大和村)  
周辺と調和したニールセン橋



信喜橋 (邑智町)  
江の川にかかる吊り橋

●素材

- ・人道橋の場合は構造形式により、おのずと素材が限定される場合が少なくないため、風土や歴史的背景など地域や場所の特性に応じた素材を構造及び形態を検討する際に、合わせて工夫する。(木橋等)
- ・必要に応じて橋台や橋脚など、橋梁を構成する部位の表面処理の材料を工夫する。
- ・コンクリート構造では、タイル張り、化粧型枠、表面に目地を入れるなどの工夫をする。



深谷大橋 (六日市町)  
山間に映えるアーチ橋



春日橋 (布施村)  
温かみを感じさせる親柱、高欄

●色彩

- ・地域や場所の特性、橋梁本体の形態、素材などから総合的に判断し、できる限り周辺の景観に調和した色彩を施す。
- ・石など自然素材による構造や仕上げの場合は基本的に自然色とし、素材の持つ味わいを積極的に活用する。

- コンクリートや鋼材など、色彩の必要な素材の場合は、周辺の景観との関係から適切な色彩を選択する。
- 自然の豊かな地域では、周辺の緑との対比または、同調させる。



穂多留橋 (横田町)  
橋上にバルコニーを設置  
親柱、高欄、照明をデザイン化  
鉄滓で舗装



西郷大橋 (西郷町)  
西郷湾のシンボル橋梁

### ■ 高欄及び照明施設

形態、意匠、素材及び色彩については、橋梁本体との調和に配慮するとともに、快適性を高める配置等の工夫に努めること。また、場合によっては地域の象徴となるよう努めること。

#### ● 高欄

- 高欄は本来、通行者の転落を防止することが目的である。しかし、人が橋を渡るとき、橋上のスペースを視覚的に印象づけ、同時に歩行の補助や、寄り掛かって橋から風景を眺めるなど、人の目に触れやすいヒューマンスケールの要素でもある。
- その形式や材料を検討し、橋梁の構造形態と調和のとれた一体感のあるデザインとすべきである。

#### ● 照明

- 照明は夜間、路面を明るくし、人や車を誘導するなど、通行の安全に寄与している。その一方、橋のある風景を美しくし、内部景観を豊かにしている。
- 照明は昼夜ともに橋の景観との関わりが強く、橋の構造形態に調和する照明が望まれる。
- 場合によっては夜間のランドマーク性を考慮した演出的照明により、夜景に彩りを添えるのもよい。
- 都市部では、周辺街路や建物を含む総合的な環境照明として相互の調整も必要である。

#### ● 親柱

- 地域のランドマークとなる橋梁の親柱については、地域の特徴を生かした素材、形態、色彩等について工夫する。



松江大橋（松江市）  
歴史を感じさせる高欄



中海大橋（松江市）  
白鳥をイメージした親柱



於保知大橋（石見町）  
銅鐸をイメージした親柱



大田橋（大田市）  
三瓶山を象徴した親柱

#### 橋詰（橋のたもと）

できる限り修景緑化や小広場等の設置により潤いの場を確保し、橋梁本体との一体的な景観整備に努めること。

- 橋の出入口であり、橋上と連続する街路の異種の空間を結ぶ役目を担い、辻広場としても利用されてきた。ベンチや照明、植栽などで構成されるが橋詰が魅力的であると橋上も生き生きしてくる。
- その広さも皆無に近いケースが多いが、計画当初の段階で是非確保したいスペースである。
- 道路との境界部に当たる橋詰は、橋梁取付け部に生じる残地を有効に活用し、橋梁本体と道路との連続性を配慮した修景・緑化を行う。

#### 植栽

植栽は橋梁の景観的環境を創造する重要な役割を担うものの一つである。既存の植生や植栽によって橋梁の基盤が覆われ、修景的な植栽が施されることによって橋梁は周辺景観と調和した構造物となる。

- 橋梁基盤の植生の保全  
橋梁にかかわる植栽で最も重要な意味をもつものは橋梁基盤の植栽である。  
ただし、植栽以前に橋梁周辺の植生を保全することが重要である。
- 橋梁基盤の植栽  
橋梁の基盤に自然植生が存在しない場合は地域景観と調和した植栽が必要である。

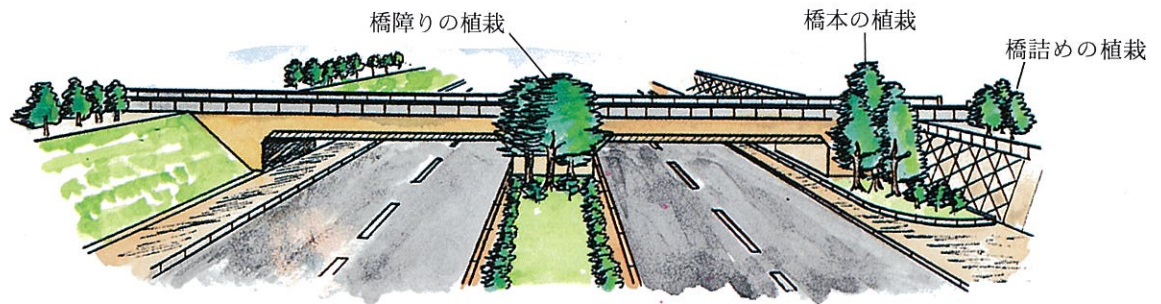


八雲橋（八雲村）  
赤い高欄が緑に映えて美しい

● 橋詰・橋本・橋障りの植栽

景観的な節目となる橋梁を修景し、橋梁の景観的に好ましくない部分を遮蔽するための植栽は効果を発揮する。

橋梁の存在を表し、指標性を高め、あるいは遮蔽効果をもたらす橋本、橋詰めの植栽を施すことが効果的である。



● なお、上記の植栽に当たっては見る人の立つ位置（視点場）、対象を常に意識することが重要である。



奥出雲大橋（仁多町）  
橋詰めの小スペースを修景



可部屋大橋（仁多町）  
橋梁を引き立てる橋詰めの修景

● 維持補修等

● 歴史的、文化的に価値のある橋梁は、適切な補修などの措置を講じ、積極的に保全する。